

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	藤沢市立鶴沼中学校	階数	地上4F
建設地	藤沢市鶴沼桜が岡四丁目2562番1他6筆	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、防火指定なし、法22条区域	平均居住人員	1,038 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年5月 予定	評価の実施日	2025年6月3日
敷地面積	5,930 m ²	作成者	(株)日立建設設計
建築面積	2,668 m ²	確認日	2025年6月5日
延床面積	9,055 m ²	確認者	(株)日立建設設計

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★ A+: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ B-: ★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★

標準計算

①参照値: 100% (建設: 30%, 修繕・更新・解体: 20%, 運用: 30%, オンサイト: 10%, オフサイト: 10%)

②建築物の取組み: 80% (建設: 30%, 修繕・更新・解体: 20%, 運用: 30%)

③上記+②以外の: 73% (建設: 30%, 修繕・更新・解体: 20%, 運用: 30%)

④上記+: 73% (建設: 30%, 修繕・更新・解体: 20%, 運用: 30%)

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもの

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質	Q のスコア = 3.6
Q1 室内環境	Q1のスコア = 3.6
音環境	3.1
温熱環境	3.0
光・視環境	4.3
空気質環境	4.3

Q2 サービス性能	Q2のスコア = 3.4
機能性	3.6
耐用性	3.2
対応性	3.6

Q3 室外環境 (敷地内)	Q3のスコア = 3.7
生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性・	4.0

LR 環境負荷低減性	LR のスコア = 3.7
LR1 エネルギー	LR1のスコア = 3.8
建物外皮の	5.0
自然エネ	2.0
設備シス	4.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル	LR2のスコア = 3.8
水資源	3.8
非再生材料の	3.8
汚染物質	4.0

LR3 敷地外環境	LR3のスコア = 3.5
地球温暖化	4.0
地域環境	3.5
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項

総合

- ZEBreadyを達成する各種仕様とする。
- 第一種低層住宅専用地域に建つ施設であることから、周辺への配慮として日影低減や敷地内緑地、歩道状空地整備を行っている。また、近隣住宅地への目線配慮としてバルコニー・垂直ルーバーを設けている。

その他

- 敷地内は現状の地盤レベルを活用し、大きな造成工事が生じないように計画した。
- 西側線路添いの既存を樹木を残すなど、現状に大きな変化が生じないように配慮。

Q1 室内環境

- 外皮性能向上として断熱材やLow-e複層ガラスを採用。
- バルコニー側に大開口の窓を設け日影を積極利用し、星光センサー・照明点灯制御で星光や照明の制御を実施。
- 全てF★★★★を採用。

Q2 サービス性能

- バリアフリー条例に準拠し使いやすい施設とし、将来更新に向けて階高の確保・配管ピットの設置等更新のし易さに配慮している。
- 中水の活用を実施。

Q3 室外環境 (敷地内)

- 敷地内の緑地化とともに、屋上/壁面緑化を実施。
- 地域配慮として歩道の整備や地域活動スペースの設置、広い空地やビロティなどを設けて地域温熱環境の向上に配慮している。

Q3 敷地外環境

- 地域インフラの負荷抑制として、雨水貯留槽設備の設置や人と車両の出入り口の分散、またゴミ置き場スペースを確保。

LR1 エネルギー

- ZEBready目標でBEI値0.50以下や設備システムの効率化を計画している。
- 太陽光発電を49.8kwで計画。

LR2 資源・マテリアル

- 節水コマや節水型便器の採用で積極的に節水に対応している。
- 躯体以外の部分にリサイクル材を積極採用し、かつ再利用に向け内装は乾式工法を用いている。また、有害物質を含まない材料を全面採用。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される